



ABEST21 e-News

No.73, January 2015

ABEST21

THE ALLIANCE ON BUSINESS EDUCATION AND SCHOLARSHIP FOR TOMORROW,
a 21st century organization

URL: <http://www.abest21.org> TEL. 03-3498-6220 E-Mail: ABEST21@abest21.org
Editor: Fumio Itoh

ABEST21 Office Report

=====

2015年1月

- ・08日：インドネシア・パジャジャラン大学ビジネススクールのソニー本社の訪問
- ・14日：関西学院大学大学院経営戦略研究科（専門職大学院）の現地調査の実施
- ・20日：文部科学省高等教育企画課を訪問
- ・23日：Peer Review Committeeの委員長椿広計教授と委員会プログラムの打合せ

1. マネジメント教育の質保証 -20

=====

産学連携によるマネジメント人材の育成

ビジネススクールは、“明日の経営を担うマネジメント力に優れたマネジメント人材の育成”を基本的な使命とすることに異論はないと思う。それはビジネススクールが学校教育機関として「人格の陶冶」と同時にその「時代的要請に応えた人材の育成」をも目的としているからである。近年の社会・経済・文化のグローバル化の加速度的な進展は、国際的な大競争時代を生み出し、異文化の多様で異質な市場を醸成してきた結果、異文化圏の価値観に対する理解力、国際競争力を支える強力なリーダーシップと創造力を身に付けたマネジメント力に優れたマネジメント人材の育成が求められてきた。

このマネジメント力に優れたマネジメント人材を育成していくためには、ビジネススクールの教育だけでは限界がある。求められるマネジメント人材には、国際社会に通用する基礎的教養はもとより異文化圏の経営環境において組織をマネジメントしていく高度専門知識・スキルが必要であり、更にはマネジメントの諸問題を瞬時に発見し解決していく現場力も不可欠である。しかし、この現場力は基本的には企業での実践を通じて涵養されていくものであり、ビジネススクールの教育にはこの実践経験を蓄積する機会がない。

ビジネススクールと企業は、マネジメント人材を育成していくという共通の使命を負っている。それはビジネススクールの教育であるのか、企業の研修によるものなのか、二者択一の関係にあるのではなく、ビジネススクール教育と企業研修の産学連携によってマネジメント人材を育成していくことが時代的要請ではないであろうか。

マネジメント人材の育成には、下記の基本的な力量が求められている。

- ① 明日の経営を革新し創造していく「企業家精神（Entrepreneurial Spirit）」
- ② 過酷な国際環境においても挫けることなくポジティブに思考を展開し、初志貫徹するタフネスさの「不撓不屈の精神（Indomitable Spirit）」

- ③ 世界の様々な分野で多様な人々を受容したり自分が受容されたりしながら、多くの人々と会社のビジョンやミッションの達成に向けて人々を動かしていくグローバルな「リーダーシップ (Leadership)」

そして、これらの力量を発揮していくために下記のグローバビリティ (Globalabilities) が求められる。

- ① 直面する問題の発見力と専門的な問題解決力に必要な「高度専門マネジメント知識・スキル (Ability to master management knowledge and skills)」、
- ② 文化的背景や社会的背景を異にする「多様で異質」な国際競争場裡で組織を運営していくに必要な多様な価値観を身に付け相手と交渉をしていく「異文化コミュニケーション力 (Ability to communicate globally)」
- ③ 異文化圏の価値観を理解しうる国際的素養を身に付け現地の文化に溶け込むことができる「多様性対応力 (Ability to manage diversity)」

マネジメント人材のこれらの力量を涵養していくために、ビジネススクールの教育ではいろいろなカリキュラムが開発されている。例えば、“リーダーシップ”の力量を涵養していくために、ビジネススクールでは産学連携で“ビジネス・シミュレーション (マネジメント・ゲーム)”の授業を実施している。マネジメント・ゲームは、学生が6～7名で架空の会社 (マネジメント・チーム) を設立し、その経営にあたる。従って、マネジメント・ゲームの授業では複数の競争会社が設立され、チーム間で利益を、マーケット・シェアを、株価等を競っていく。マネジメント・チームでは、一人の社長を選び、他の学生は生産、販売、財務、研究開発、経理などの機能を担当する部長職に就き、それぞれのデータを分析し、チーム内で議論しながら需要予測、設備投資、資金調達、利益管理、人事計画などの各種の意思決定をしていく。このマネジメント・ゲームの実施期間中に取締役会が開かれ、社長及び各部長が取締役会に立案した戦略や会社の業績を報告し、その承認を得ていく。この取締役会のメンバーの構成には企業の協力が不可欠である。取締役会は実務経験豊富な実務家によって構成され、彼らの豊かな経験と知識から疑問を投げかけ、チームの判断や提案を、株主の利益の視点から評価し、アドバイスをしていく。この経験は学生が企業で一定の年齢及び役職でなければ経験できない経営幹部の実務を疑似体験することであり、多様な価値観と文化で構成された架空会社の経営を経験する機会によって学生は“社長のリーダーシップとは何か”を学んでいく。社長がリーダーシップを発揮できなければ、その会社は倒産していくことをも学んでいく。このマネジメント・ゲームは企業の協力が無ければできない授業であり、また、学生にとって“リーダーシップとは何か”を疑似体験する絶好の機会でもある。

また、「高度専門知識・スキル」の修得には世界第一級の教育研究者の招聘が必要である。しかし、大学の限られた予算のなかでの招聘は厳しい。そこで、企業の寄付金による「寄附講座」を開設し、世界第一級の教育研究者を招聘し、この「寄附講座」を寄附企業と共有し、ビジネススクールの学生と同時に寄附企業の社員をも教育していくことでマネジメント人材の育成は可能となっていく。この寄附講座は、国際諸事象を解明していく先端的な学術理論の教授だけではなく、国際競争場裡で展開されている実務をマネジメント経験豊富な実務者の教授にも適用されていく。

更には、企業は社員の海外派遣前の研修及び帰任後のフィードバックが必要な場合、ビジネススクールとの連携により専門分野の研究者の助言等を活用して研修の成果を高めていくこともできる。

ビジネススクールは MBA 学位を提供する教育プログラムの教育だけを考えていくのではなく、マネジメント人材の育成のために、企業の多様なニーズに応えた短期集中的な教育プログラムの開発をも視野にいれていかなければならない。いずれにしても、マネジメント人材の育成にはビジネススクールと企業との産学連携が不可欠であり、学術理論・スキルと実務との架橋によりより一層

マネジメント力に優れたマネジメント人材の育成が問われているのではないだろうか。(理事長、伊藤文雄)

2. General Information

1) 3月会議のプログラムについて

2015年3月5日と6日に、Peer Review Committee、Accreditation Committee、理事会、総会及び国際シンポジウムが、富士ゼロックス株式会社本社会議室と早稲田大学ビジネススクール会議室で、それぞれ開催されます。現段階のプログラムは下記の通りです。

Day 1: Thursday, 5th March, 2015、Venue: Fuji Xerox Co., Ltd.

09:00-10:30: Peer Review Committee

10:30-10:45: Break

10:45-12:15: Accreditation Committee

12:30-14:30: The Board Meeting

14:30-14:45: Break

14:45-16:45: Fuji Xerox Company Lecture

18:00-20:00: Refreshment Party

Day 2: Friday, 6th March, 2015

09:30-11:20: General Assembly

11:30-17:45: International Symposium

11:30-11:45: Opening Remarks

11:45-12:45: Keynote Speech: "Higher Education in a Globalized Society"

12:45-13:45: Lunch

13:45-14:30: Special Speech: "ABEST21 in the past 10 years"

14:30-14:45: Break

14:45-16:30: Group Discussions: "ABEST21 in the future 10 years"

16:30-17:30: Panel Discussions: "Where do we go?"

17:30-17:45: Closing Remarks

2) ABEST21 創立 10 周年記念式典・祝賀会の挙行について

ABEST21 創立 10 周年記念の式典及び祝賀会を下記の日程で開催することになりました。

1) 日 時 2015 年 7 月 7 日 (火) ABEST21 創立 10 周年記念の式典及び祝賀会

式典、午前 9 時～午後 1 時、ホテルニューオータニ (東京)

祝賀会、午後 6 時～午後 8 時、ホテルマウント富士 (山中湖)

3) 東芝未来科学館 (Toshiba Science Museum) の見学について

ABEST21 は 2015 年 7 月 7 日 (火) の創立 10 周年記念式典に先立って、7 月 6 日 (月) に神奈川県川崎市に設置されている東芝未来科学館の見学を予定しています。東芝未来科学館では、東芝の創業期から現代の最先端技術の追求に至る東芝の姿、科学技術教育の実態、そして産業遺産の保存という東芝の三つのミッションを学びます。

4) 2014 年度認証評価証の授与について

2014 年度認証評価証書の授与は、本来なら 2015 年 3 月の総会にて行うのですが、今年は記念す

べき年ですので、2014年11月開催のPeer Review Committeeの提案を受け、2015年7月7日のABEST21 創立10周年記念の式典で授与することになりました。

5) 「ABEST21 10年史」の刊行について

ABEST21は、ABEST21 創立10周年を記念して「ABEST21 10年史」を刊行することにいたしました。10年史において学校会員及び企業会員からのメッセージと写真を掲載することにいたしましたので、ご協力の程お願いいたします。

3. Quality Assurance Information

=====

1) Accreditation Seminar の開催について

2015年度上半期のAccreditation Seminarを、4月7日にインドネシア・マラン市のブラウイジャヤ大学 (Faculty of Economics and Business, Universitas Brawijaya) で、4月9日にマレーシア・クアラルンプール市のManagement and Science Universityで、そして4月23日に東京のABEST21で、それぞれ2015年度認証評価受審申請校とSER提出予定校を対象に開催することになりました。

2) 関西学院大学（専門職大学院）の現地調査について

2015年1月14日、兵庫県西宮上ヶ原キャンパスに設置されている関西学院大学大学院経営戦略研究科 (Institute of Business and Accounting, Kwansei Gakuin University) (専門職大学院) の認証評価に係る現地調査が国際チームによって行われました。現地調査のインタビューは全て英語で行われ、大学執行部の大学長村田治教授 (写真1、中央)、副学長伊藤正一教授 (写真1、左) 及び副学長小菅正伸教授 (写真1、右) に対して、経営戦略研究科の支援について、大学執行部の経営戦略等の経営方針を聞き、研究科執行部とのインタビューについては定藤繁樹教授 (写真2、右) より「自己点検評価報告」の不明確事項について事実確認の質疑応答を行いました。学生インタビューでは、大阪梅田キャンパスにおいて外国人留学生及び社会人学生と学生生活の諸問題についてインタビューを行いました。



(写真1)



(写真2)

3) Accreditation Eligibility 及び Accreditation Plan の有効期間について

2014年11月7日開催のPeer Review CommitteeにおいてAccreditation Eligibility 及び Accreditation Plan の有効期間について審議し、その結果、有効期間はAccreditation Eligibility 及び Accreditation Plan が各委員会で承認された年度から2ヶ年間となりました。

4. Global Knowledge Network Information

1) インドネシア、パジャジャラン大学学生のソニー株式会社の訪問について

2015年1月8日（木）インドネシアの国立大学である Faculty of Economics and Business Universitas Padjadjaran の学生約30名がソニー株式会社のご協力によりソニー本社を訪問されました。まず、ショールーム“The Square”にて、フルハイビジョンの4倍ある高画質化を追求した4Kテレビや、ライブアクション技術を駆使したゲーム機器等の最新技術について体験しながら説明をうけた後、山本洋史、人事センター副センター長兼人材開発部統括部長より創業以来大切にされている“Quliosity”について等、ソニーのフィロソフィーについてご紹介いただいた後、現在のビジネス概況、人事戦略等についてご説明いただきました。その後、インドネシアにおける Customer Preference への対応や、多様なビジネスを展開しているグローバル企業が直面している人事の課題などについて質疑応答が行われました。



5. Membership Information

1) Faculty of Economics, Universitas Sriwijaya, Palembang

Universitas Sriwijaya は、インドネシアのスマトラ島南部に位置する南スマトラ州の州都パレンバンにある国立大学です。Sriwijaya とは、7世紀後半に栄えたマラッカ海峡の交易ルートを支配した交易帝国の名前です。1960年に創立し現在、約26,000人の学生がパレンバン市にあるキャンパスと、市内から32キロ程離れた南スマトラキャンパスで学ばれています。研究志向の大学でインドネシア国内の優れた国立大学18校に選ばれています。Faculty of Economics は、設立当初より開講されており学生数は約5,400人です。タイの Kasetsart University, マレーシアの Universiti Malaysia Terengganu 等とパートナーシップを結びグローバル化を推進されています。研究科長は Dean Taufiq。Faculty of Economics, Sriwijaya University の URL は、<http://www.fe.unsri.ac.id/>

2) Faculty of Business and Economics, Universitas Surabaya, Surabaya

Universitas Surabaya は、インドネシア第2の都市であり、東ジャワ州の州都であるスラバヤにある東ジャワ島で最大規模の私立大学です。1968年3月に Universitas Trisakti より発展して創立され、1991年に総合大学へ改組されました。現在、約11,320名の学生と約315名の専任教員が在籍しています。Faculty of Business and Economics は、1968年に Faculty of Business として開設され約3,080名の学生と約70名の専任教員が在籍しています。専任教員の大部分がインドネシアをはじめ、米国、英国、オーストラリア、オランダ、フィリピンの有名大学にて修士・博士課程を修了されています。アルムナイの総数は約10,000名で、国内外の企業の役員や国内外の大学教員として広く活躍されています。研究科長は Dean Suyanto 。 Faculty of Business and Economics, Universitas Surabaya の URL は、www.fbe.ubaya.ac.id